

「MINAMATA」 米の写真家役にジョニー・デップ

NIEワークシート／中学校～高校／社会、総合



第70回ベルリン国際映画祭で、記者会見に臨む(左から)ジョニー・デップ、美波、アイリーン・美緒子・スミスさん (共同)

水俣病を世界に伝えた米国の写真家ユージン・スミスを俳優ジョニー・デップが演じる映画「MINAMATA」が、2月にベルリン国際映画祭で世界初上映された。スミスの元妻、アイリーン・美緒子・スミスさんは「ユージンの精神が新たな形で共有されていくのではないかと。世界が水俣病の現実を知るときに期待を込める。」

映画はスミスとアイリーンの共著である写真集「MINAMATA」が原作。1971年、戦争取材を終え、自暴自棄になっていたスミスが米ライフ誌の依頼で熊本県水俣市を訪れる。通訳として同行したアイリーン(美波)に叱咤され、被害者の家族を訪ねるうちに撮影にのめり込んでいく…というストーリーだ。アンドリュース・レビタス監督が主にセルビアで撮影し、真田広之や国村隼ら日本の俳優も出演。実在の患者の写真

水俣病の現実知るきっかけに

実在の患者の写真や映像盛り込む

や映像も盛り込まれた。プロデューサーも務めたデップが、同映画祭の記者会見で「(患者の苦しみが)今も続いていることがショックだった。この物語を人々に届けられることに誇りを感じている」と語ると、会場は大きな拍手に包まれた。スミスとアイリーンさんは71年に結婚。同年から74年にかけて水俣市に住み込みながら、患者の姿や抗議活動の様子をカメラに取めた。映画では描かれないうが、実際には30歳以上の離れた夫婦であり、「共通の使命を背負った同志でもあった。仕事に関しては完全に平等。それがユージンのやり方でした」とアイリーンさん。

5年ほど前に映画化の話が持ち掛けられた時は半信半疑だったが、その後デップがスミスを演じるに聞いて「ええっ、と驚いた。映画化が決まっただけで脚本に助言し、撮影現場にも足を運んだ。」



映画「MINAMATA」より

一方、スミスの仕事ぶりについては「映画では彼がやる気や失う描写もあるけど、そんなことはなかった。水俣の取材は彼にとって最後の勝負であり、注ぐエネルギーは3年間一度も途切れませんでした」と述懐する。患者の素顔をモノクロームで捉えた写真集「MINAMATA」は世界に衝撃を与えたが、出版から約3年後の78年にスミスは死去。水俣病の未認定患者による訴訟は今も各地で続いている。アイリーンさんは「映画が公害というある種のタブーを打ち破ると信じている。必ず日本で公開してほしい」と話している。(国内の公開は未定)

名前【 】

① ジョニー・デップが演じた写真家の名前を書きましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

② 2月にどこで上映されましたか。

--	--	--	--	--

国際映画祭

③ 何という病気を取り上げた作品ですか。また、いつどこで何が原因で起こったか調べてみましょう。

--	--

病

④ 調べた感想を書きましょう。